

令和4年度 福岡市の環境施策

令和5年11月13日
福岡市環境審議会



回収したプラスチックから製作したプランター

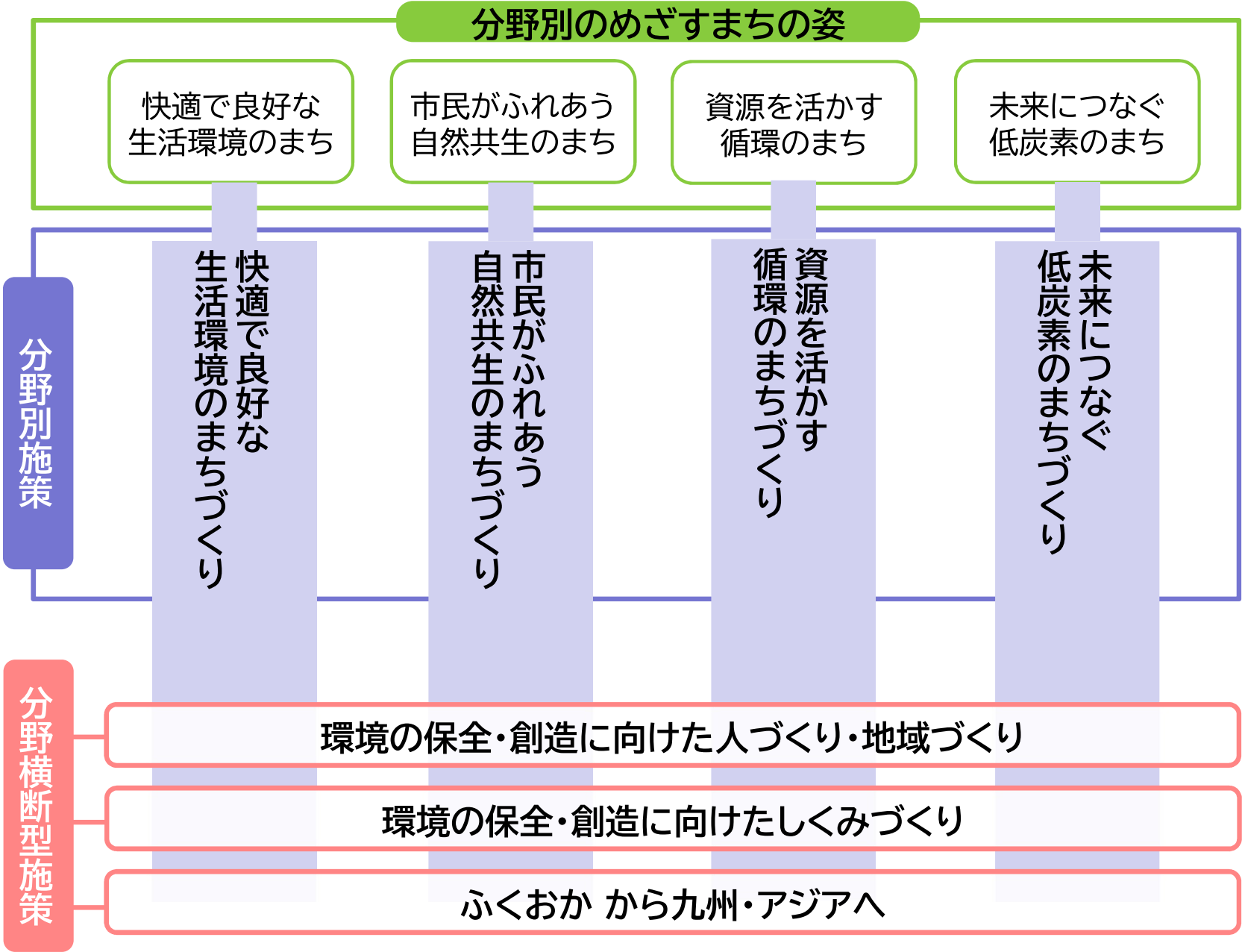


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けた17の国際目標
「誰一人取り残さない持続可能な社会」の
実現を目指しています。

環境施策の全体像(福岡市環境基本計画)

めざすまちの姿 豊かな自然と歴史に育まれ、未来へのちつなぐまち



環境施策の実施状況等に対する評価

○総合評価の基準

成果指標のA＝3点、B＝2点、C＝1点とし、各指標の平均点により評価します。

平均点	評価(基準)	
2.5以上	順調に進捗している	★★★
1.5以上2.5未満	概ね順調に進捗している	★★
1.5未満	進捗が遅れている	★

※ 特記事項（外部要因等）を踏まえ、各指標の平均点をベースとした評価（基準）から、★の増減を行う場合があります。

○評価の一例

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境基準（大気質） の達成率	NO ₂ 100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	★★★ (2.8)
環境基準（有害大気 汚染物質）の達成率	ベンゼン 100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	
環境基準（自動車騒 音）の達成率	95.3% (2012年度)	95.9% (2022年度)	100% (2024年度)	B (2)	
環境基準（ダイオキ シン類）の達成率	100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	

各指標の平均点は
 $(3+3+1+3)/4$
＝2.8点となる

第1節 快適で良好な生活環境のまちづくり

○第1項 黄砂・PM2.5 などの大気汚染物質への対応

- ・黄砂・PM2.5 対策の推進
- ・黄砂・大気汚染物質予測、警報システムの運用
- ・大気汚染物質発生源対策の推進
- ・大気汚染に関する調査・研究



○第2項 良好な生活環境の保全

- ・大気汚染物質発生源対策の推進
- ・監視体制の拡充
- ・アスベスト対策
- ・有害大気汚染物質対策
- ・騒音・振動対策
- ・有害化学物質に関する調査研究と情報提供の充実



○第3項 気候変動への適応

- ・浸水対策等の推進
- ・渇水対策の推進
- ・森林病虫害等の被害対策の推進
- ・ヒートアイランド対策の推進
- ・熱中症対策の推進



○第4項 歴史・景観を活かした美しいまちの実現

- ・歴史的文化を活かしたまちづくり
- ・モラル・マナーの向上



黄砂・PM2.5対策

黄砂・PM2.5による市民生活や健康への影響を未然に防止するため、予測情報の提供や市ホームページ等による啓発を実施

○黄砂・PM2.5予測情報の発信

予測情報をLINE、防災メール等で発信

- ・黄砂予測情報（18回提供）
- ・PM2.5予測情報（2回提供）
- ・PM2.5ダイヤル（着信件数4,264件）

○花粉予測情報の提供

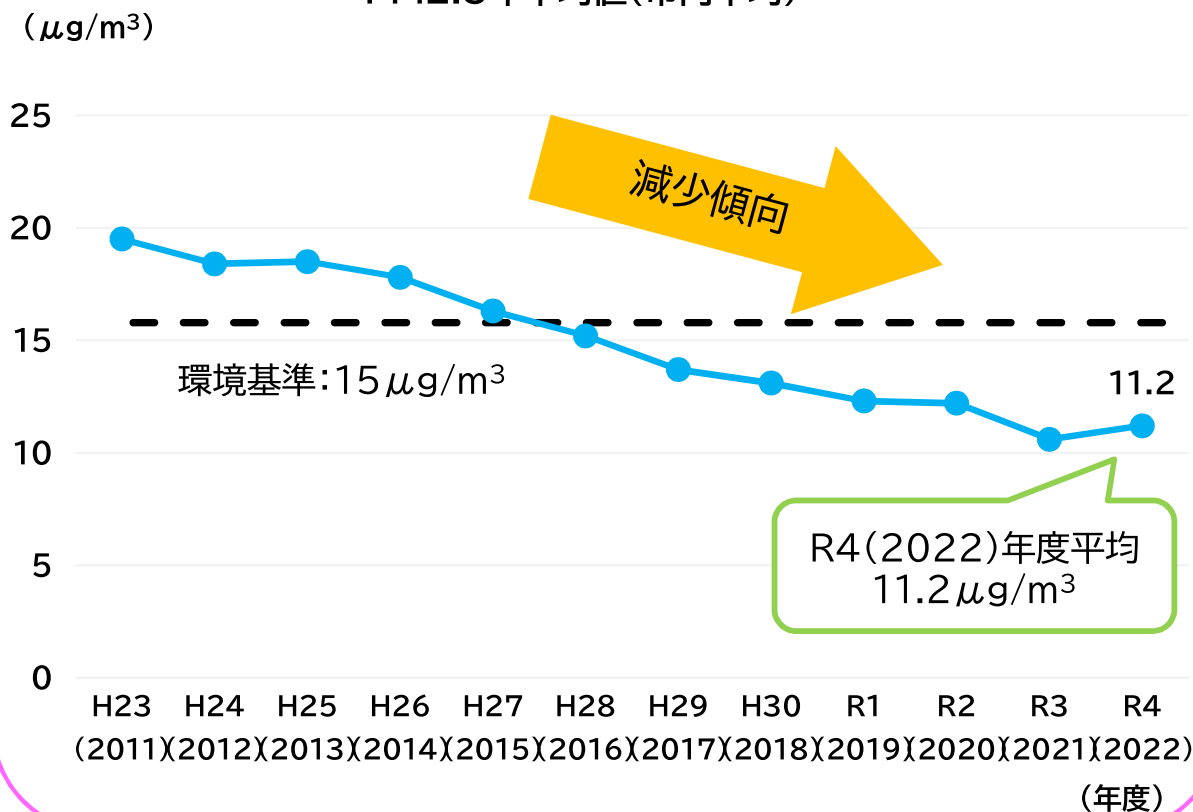
花粉の予測情報を、黄砂・PM2.5と一元化して市ホームページに掲載（スギ・ヒノキの飛散時期）

○普及・啓発

- ・市政だより（令和5年3月1日号）
- ・市ホームページ など

PM2.5年平均値の推移

PM2.5年平均値(市内平均)



成果指標の達成状況

○第1項 黄砂・PM2.5などの大気汚染物質への対応

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
PM2.5の 予測精度	見逃し率 48.1% (2013年度)	0.0% (2022年度)	30%以下 (2024年度)	A (3)	★★★ (3)



大気環境

大気汚染防止法に基づき、市内16か所に測定局を設置し、大気汚染物質等の常時監視を実施。測定結果（1時間値）はリアルタイムでホームページに公表。

＜大気環境基準達成状況＞ ○:達成 ×:非達成

測定局	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	光化学オキシダント
一般環境大気測定局（8局）	香椎	-	○	-	○	×
	東	-	○	-	-	×
	吉塚	○	○	-	○	×
	春吉※	○	○	-	○	×
	南	-	○	-	-	×
	長尾	-	○	-	○	×
	祖原	○	○	-	-	×
	元岡	-	○	-	○	×
自動車排出ガス測定局（8局）	千鳥橋	-	○	-	○	-
	比恵	-	○	-	-	-
	天神	○	○	○	-	-
	大橋	-	○	-	○	-
	別府橋	-	○	-	-	-
	西新	-	○	-	○	-
	石丸	-	○	-	○	×
	今宿	-	○	-	-	-

※市役所局は令和4年3月廃止。令和4年4月に春吉局設置。



＜光化学オキシダント注意報発令状況＞
令和4年度:発令なし

アスベスト対策

- ・副市長をトップとした「アスベスト対策調整部会」を設置し、「アスベスト対策推進プラン（第二次）」（2018年3月策定）に基づき、関係部局が一丸となって施策を実施。
- ・大気汚染防止法の改正を踏まえ、令和3年度から規制対象となった解体工事等への監視を強化。

○ 特定粉じん(アスベスト)排出等作業における・監視指導状況

- ・適切な飛散防止措置の実施を確認
- 特定粉じん排出等作業実施届出件数：35件
立入検査件数：届出対象 38件
届出対象外 252件
作業時の測定件数：71件

○ 一般環境測定の実施

- ・大気中のアスベスト濃度について調査を実施
調査の結果、0.056～0.17本/L（総繊維濃度）と健康影響はないとされる値であった。

アスベスト対策推進プラン(第二次)

①建築物のアスベスト除去推進

- ・市有建築物のアスベスト除去推進等
- ・民間建築物の使用実態調査
- ・補助制度の活用及び拡充

②解体工事からのアスベスト飛散防止

- ・解体等工事の届出漏れ防止
- ・工事の監視指導／廃棄物の適正処理

③情報の一元化、市民への情報発信

- ・一般環境大気中のアスベスト濃度測定
- ・非飛散性アスベストの調査・研究
- ・市民への情報発信／市民相談への対応

④災害時のアスベスト飛散・ばく露防止

- ・建築物の損壊、解体等に伴う飛散防止
- ・廃棄物の処理に伴う飛散防止
- ・市民への情報発信

成果指標の達成状況

○第2項 良好な生活環境の保全

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境基準（大気質） の達成率	NO ₂ 100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	★★★ (2.8)
環境基準（有害大気 汚染物質）の達成率	ベンゼン 100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	
環境基準（自動車騒 音）の達成率	95.3% (2012年度)	95.9% (2022年度)	100% (2024年度)	B (2)	
環境基準（ダイオキ シン類）の達成率	100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	



気候変動への適応

気候変動による自然環境への影響や、人の健康や生活などへの影響を回避・低減するため、自然や人間社会のあり方を調整する「適応」の取組みを推進

【自然災害に関する対策】

○洪水・高潮・内水・土砂災害ハザードマップの提供

- ・区役所の窓口等におけるハザードマップの提供

○浸水対策等の推進

- ・博多駅周辺・天神地区における、分流化による合流式下水道改善（分流化事業約3ha、累計約347ha）
- ・歩道において、透水性舗装を推進（整備実績：38,423㎡）

○災害時の電力確保

- ・公民館など168指定避難所に電気自動車（EV）からの電力を供給可能とする設備を設置
- ・災害等による停電時には、EV庁用車や災害時連携協定締結の自動車メーカーのEVを「動く蓄電池」として活用し、避難所における電力確保を図る



電気自動車から公民館への給電（イメージ）

【暑熱環境に適応したライフスタイル構築】

○緑のカーテンプロジェクト

- ・市有施設：207施設
- ・コンテスト応募：89件

○「住宅窓改修の手引き」を活用した広報



緑のカーテンコンテスト受賞作品

熱中症対策

地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進する「福岡市温暖化対策推進会議」の下に「熱中症対策部会」を設置し、熱中症の予防に向けた啓発・注意喚起に取り組んでいる。

○暑さ指数の情報提供

- ・ホームページ、LINE、防災メール等を活用し、暑さ指数の予測情報を提供。

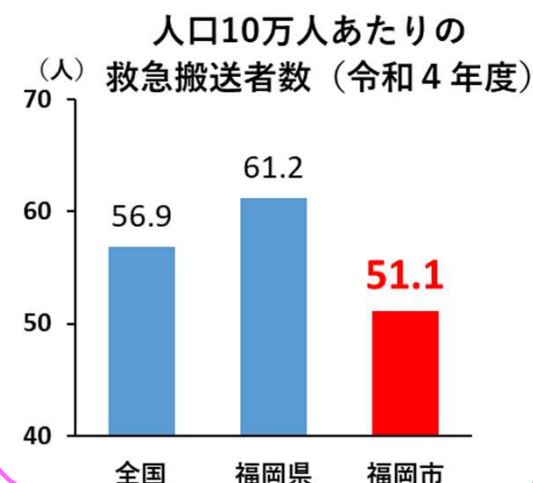
○デジタルサイネージを活用した熱中症予防動画の放映

- ・天神エリア大型ビジョン等で予防行動を促す動画を放映。

○高齢者への熱中症予防啓発

- ・地域の高齢者を見守る活動を行う市社会福祉協議会ボランティアの方に暑さ指数計を提供し、高齢者への熱中症予防の声かけを支援。

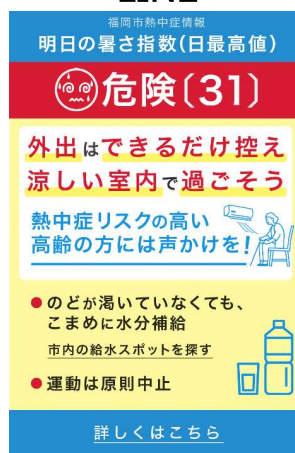
福岡市における熱中症対策の成果



ホームページ



LINE



熱中症予防動画



第2節 市民がふれあう自然共生のまちづくり

○第1項 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

- ・博多湾の保全
- ・みどりの保全・創出
- ・市街地における緑や水の生態系ネットワークの形成
- ・自然環境調査



○第2項 自然からの恵みの持続的利用の促進

- ・快適な都市環境の維持・向上の推進
- ・生物多様性の恵みを活かした災害につよいまちづくり
- ・生物多様性の恵みを活かしたふれあいの機会の創出
- ・生物多様性の恵みを活かした農水産物の積極的な活用
- ・生物多様性に支えられる文化の継承



○第3項 生物多様性の認識の社会への浸透

- ・市民への生物多様性の認識の理解促進
- ・多様な主体参画の促進、支援
- ・国内外の交流の推進、情報ネットワークの構築

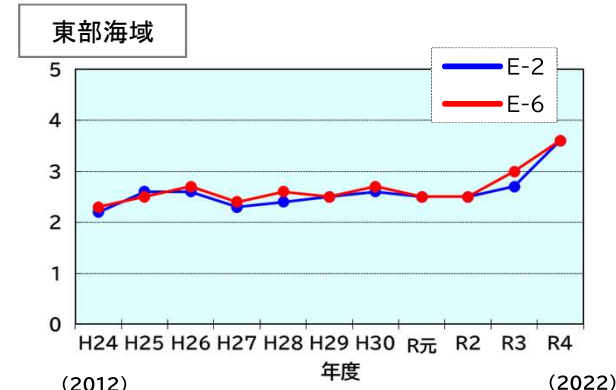
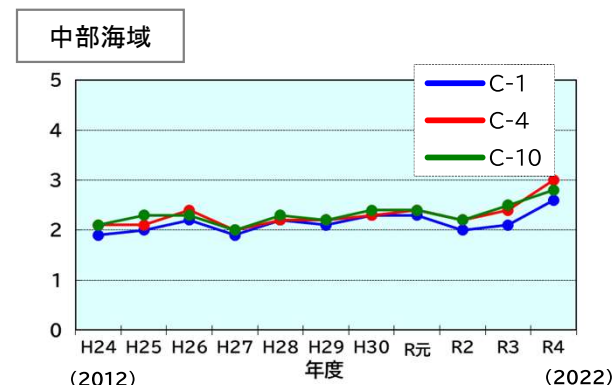
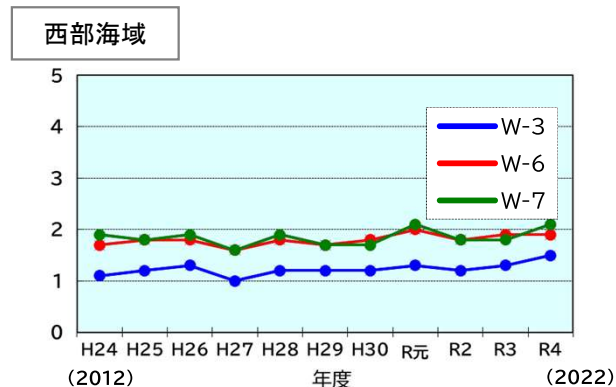
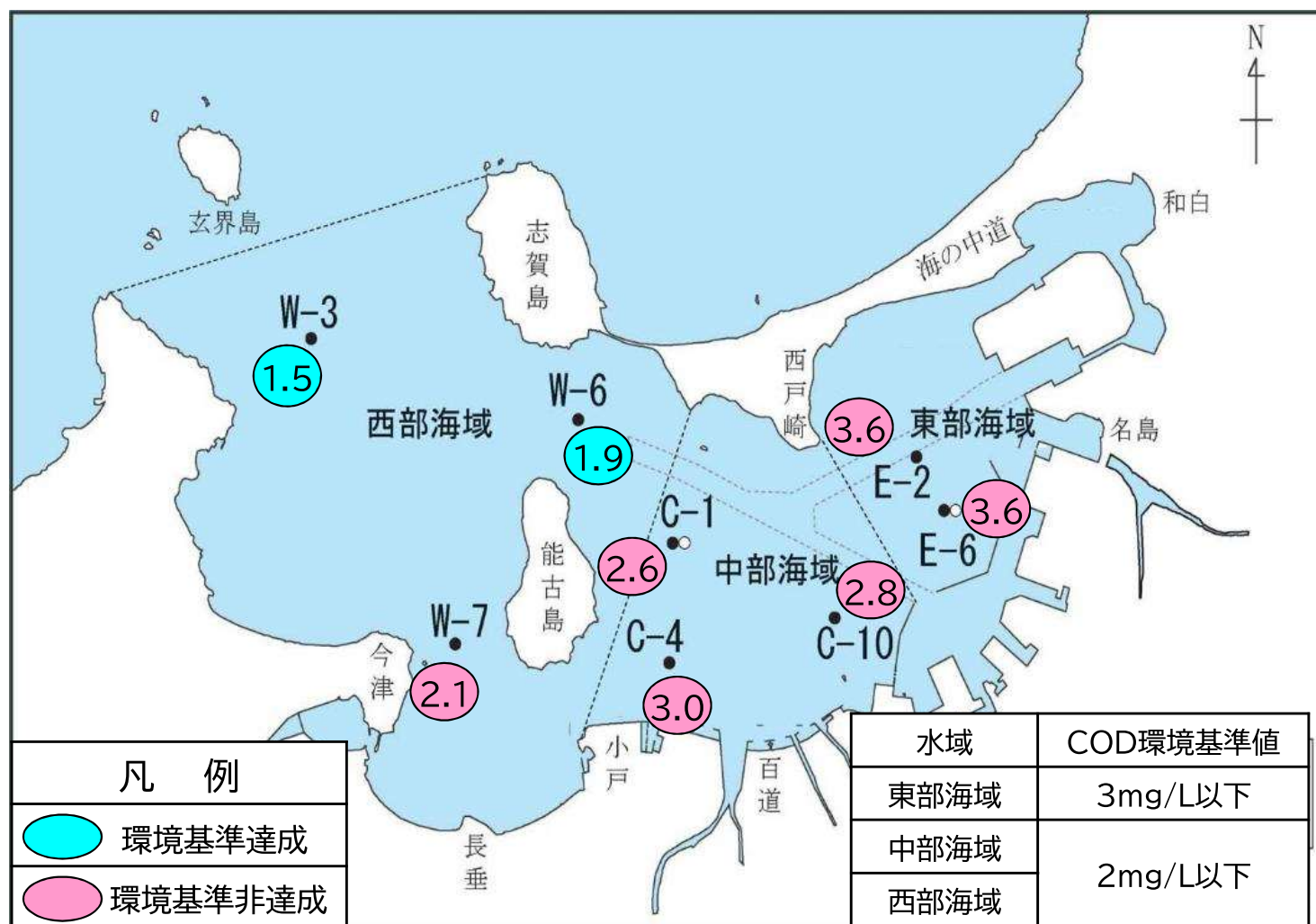


博多湾の保全

「第二次博多湾環境保全計画」の着実な推進を図るため、計画的なモニタリングを行い、定期的な点検・評価等を実施。

○ COD環境基準達成状況(令和4年度)

- ・ 令和4年度は、2地点が環境基準を達成。
- ・ 長期的には減少傾向を示しており、この10年間では概ね横ばい傾向。



COD全層年平均値の推移

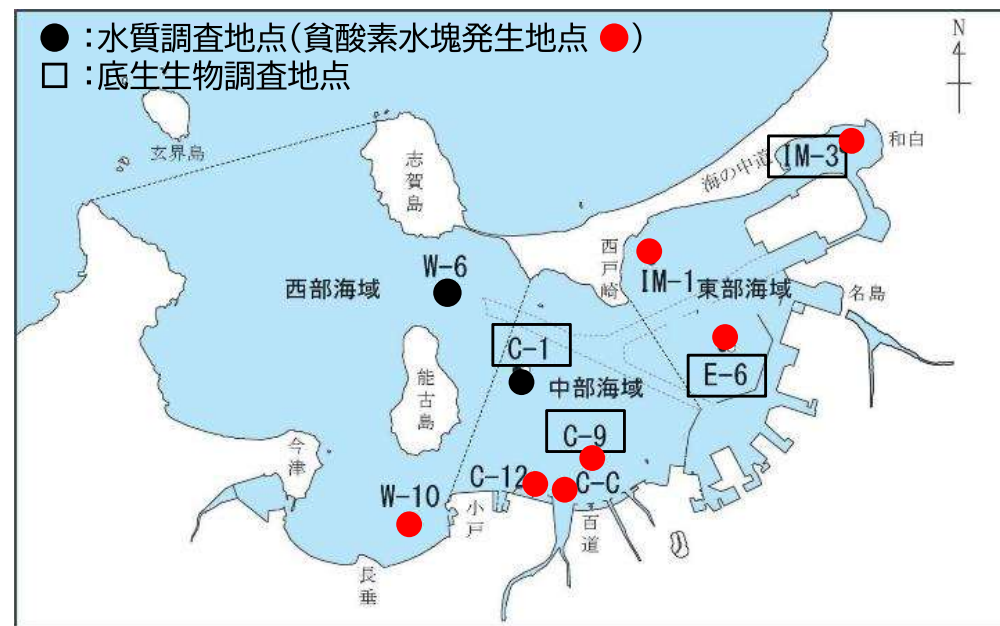
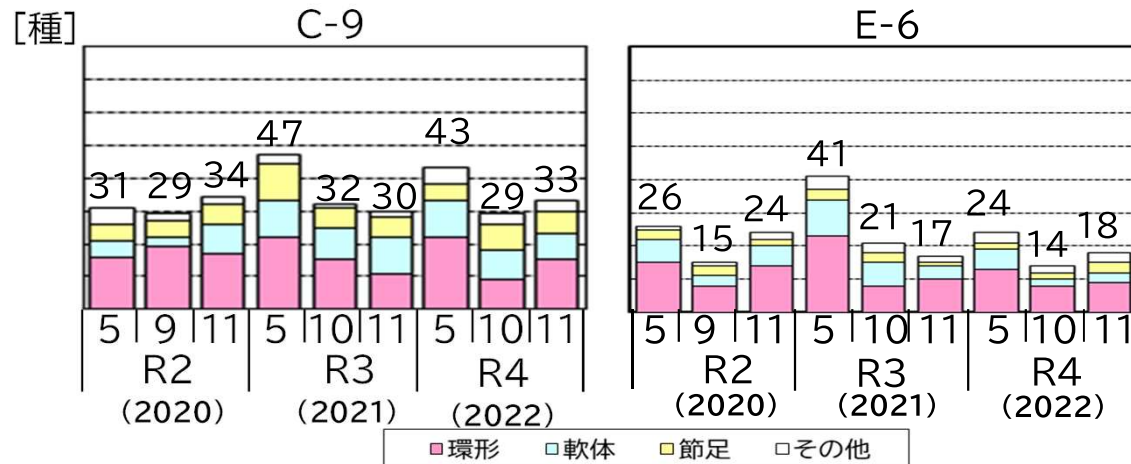
博多湾の保全

○貧酸素水塊発生状況

調査期間：5月～11月（月1～2回）

令和4年度は、9地点中7地点にて貧酸素状態（海底上0.1mでの溶存酸素量 3.6mg/L以下）を確認。

○底生生物の生息状況

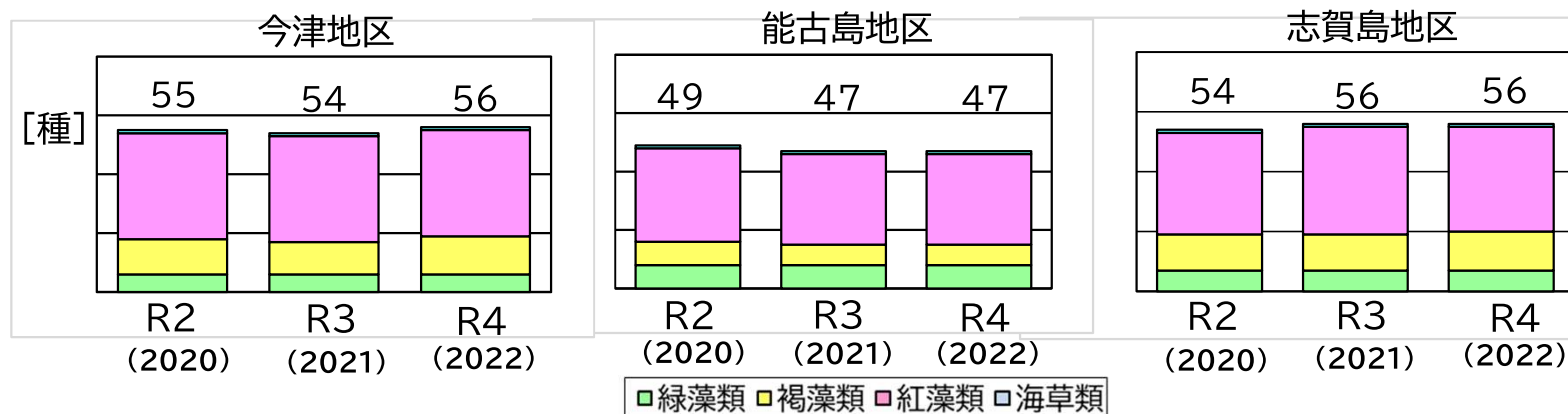


水質調査地点

○海藻・海草(アマモ)植生調査

調査期間：4月～翌年2月

いずれの場所においても大きな変化はみられなかった。



海藻・海草(アマモ)植生調査地点

博多湾の環境保全に向けた取り組み

「博多湾環境保全計画（第二次）」の将来像『生きものが生まれ育つ博多湾』の実現に向け、関係局や多様な主体と連携、共働しながら、博多湾の環境保全の取り組みを推進。計画の着実な推進を図るため、「博多湾環境保全計画推進委員会」を開催し、計画の進行管理や施策の効果検証、新たな対策の検討等を実施。

○下水の高度処理導入

博多湾の水質保全のため、下水に含まれるリン等を除去する高度処理を実施

○西部水処理センターにおける季節別運転管理の試行

冬季にノリの生育に必要な栄養塩（リン）が不足しているため、ノリ養殖場に近い西部水処理センターで、リン放流水質の季節別管理運転の試行を実施

○漁場環境保全のための海底ごみ回収等

- ・海底ごみ回収量 96m³
- ・海底耕うん 34回

○海域環境創造事業（シーブルー事業）

博多湾東部海域における水底質の改善を図り、多様な生物が生息する海域環境の創造を目的として、アマモ場造成等を実施

- ・アマモ場造成（和白海域） 260m²
- ・海底耕うん（和白海域） 1 ha

○市民参加による干潟生物調査

市民の「干潟を大切に作る心」を育み、環境保全意識の醸成を図るため、和白干潟において、市民参加による干潟生物調査を実施



漁業者による海底ごみ回収



アマモとコウイカの卵



和白干潟での干潟生物調査

成果指標の達成状況

○第1項 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
全市域における 緑被面積	18,864ha (2007年度)	18,984 ha (2022年度)	現状維持 (2020年度以降)	A (3)	★★ (2.2)
農地面積 (農業振興地域の 農用地区域内)	1,559ha (2014年度)	1,550 ha (2022年度)	現状維持 (2023年度※)	C (1)	
森林面積	11,054ha (2010年度)	11,730 ha (2020年度)	現状維持 (2024年度)	A (3)	
環境基準（博多 湾）の達成率	COD 62.5% (2012年度)	25.0% (2022年度)	100% (2024年度)	C (1)	
環境基準（河川 水質）の達成率	BOD 100% (2012年度)	100% (2022年度)	100% (2024年度)	A (3)	
カブトガニの 卵塊・幼生数	卵塊：12 幼生：63個体 (2012年度)	卵塊:18 幼生:11個体 (2022年度)	現状維持 (2024年度)	B (2)	

※基本計画の目標年度が2024(R6)年度であるため、本成果指標については、目標年度以降に指標項目及び目標値の再設定を検討する。



生物多様性の認識の社会への浸透

「生物多様性ふくおか戦略」に基づき、身近な自然の恵みの持続的な利用と保全の好循環を生み出すための取組みを推進。

○森の恵み体験活動

様々な機能を持つ森について、市民の関心を高め、森の恵みを発見できる体験活動を実施

実施場所：曲渚水源かん養林

- ・森のワークショップ開催数：3回
- ・オンライン木工体験開催数：4回
- ・オンライン自然観察会：2回



森のワークショップ
(間伐体験)



オンライン自然観察会

○NPO等交流支援事業

環境保全活動を高めあうネットワークを構築するため、NPO団体や大学、民間企業、行政機関などが交流する活動を実施

- ・ふくおか環境連絡交流会開催数：2回
- ・生きものと私たちのくらしトークカフェ開催数：3回



トークカフェ



ふくおか環境連絡交流会

成果指標の達成状況

○第3項 生物多様性の認識の社会への浸透

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
生物多様性を理解し、 その保全を意識して行 動している市民の割合	14.7% (2012年度)	18.9 % (2022年度)	35.0% (2024年度)	B (2)	★★ (2)



第3節 資源を活かす循環のまちづくり

○第1項 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進

- ・ 様々な媒体等を活用した情報発信
- ・ 環境教育・学習機会の提供
- ・ 家庭におけるリサイクルの促進
- ・ 事業系古紙回収の推進
- ・ 一般廃棄物排出事業者に対する減量化指導の徹底
- ・ ごみ減量・リサイクルの推進に向けた基金の活用



○第2項 廃棄物の適正処理の推進

- ・ 収集運搬の区分及び体制
- ・ びん・ペットボトルの再資源化
- ・ 資源物の持ち去り防止対策
- ・ 広域連携
- ・ 産業廃棄物排出事業者の監視・指導
- ・ 不法投棄対策



○第3項 水資源の有効利用の促進

- ・ 節水意識の高揚
- ・ 水の有効利用
- ・ 下水処理水や雨水等の有効利用
- ・ エネルギーの有効利用
- ・ 水源地域・流域との連携・協力



成果指標の達成状況

○第1項 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
ごみ処理量	56.3万 t (2012年度)	50.6万t (2022年度)	47万 t (2024年度)	B (2)	★★ (1.5)
ごみのリサイクル率	30.6% (2012年度)	30.5% (2022年度)	37% (2024年度)	C (1)	



清掃工場・最終処分場

○清掃工場・最終処分場におけるごみ処理状況

□ 清掃工場



令和4年度は、4つの清掃工場で市内の可燃ごみ約46.3万トンを焼却処理。また、焼却の余熱を利用し発電。

令和4年度発電量：約2億5,400万kWh
(一般家庭約7万8千世帯分の年間使用量に相当)

CO₂ 排出削減効果：約11万5千トン

○西部工場再整備の検討着手

令和4年度は新工場の主な設備や付帯設備など基本的な要件に関する方針を定めた基本計画を策定した。次第4 - 21

□ 最終処分場



令和4年度は、東西2つの埋立場で不燃ごみや焼却灰など約10.3万トンを最終処分。

埋立場	西部（中田）	東部（伏谷）	合計
埋立容量	238万トン	510万トン	748万トン
既埋立量	111万4千トン (47%)	347万4千トン (68%)	458万8千トン (61%)

総残余容量：約289万2千トン（令和5年3月末時点）

不法投棄対策

不法投棄の防止に向けて、監視パトロールやカメラの増設を行うとともに、地域住民の活動支援などを実施。

○パトロールやカメラによる監視

- ・市職員によるパトロール：100回/年
（市内4コース）
- ・委託業者によるパトロール：250回/年
（市内6コース）
- ・監視カメラ設置：59か所 97台



監視パトロール・監視カメラ



不法投棄物

○地域活動支援、市民への啓発

- ・地域の不法投棄防止活動に対する支援
15団体（16校区）に、月額2万円を助成
- ・ポスターや警告看板等の作成、設置
- ・12月「福岡市不法投棄防止強化月間」
広報・啓発を実施



不法投棄警告看板



地域パトロール・回収活動

成果指標の達成状況

○第2項 廃棄物の適正処理の推進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
不法投棄処理量	87 t (2012年度)	23t (2022年度)	39 t (2024年度)	A (3)	★★★ (3)



第4節 未来につなぐ低炭素のまちづくり

○第1項 省エネルギーの促進

- ・ 市民・事業者の省エネ行動の支援
- ・ 脱炭素社会の構築に向けた情報提供等
- ・ 市有施設等における省エネの推進
- ・ 事業所省エネ技術導入サポート事業（ソフトESCO事業）等の利用促進
- ・ エネルギーの効率が良くクリーンな次世代自動車の普及促進



○第2項 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用

- ・ 市有財産等を活用した再生可能エネルギーの率先導入
- ・ 市民や事業者による再生可能エネルギー等の導入促進



○第3項 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築

- ・ 公共交通幹線軸の強化
- ・ 公共交通の利便性向上と利用促進
- ・ 道路交通の円滑化
- ・ 自転車で移動しやすい交通環境づくり



成果指標の達成状況

○第1項 省エネルギーの促進

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
家庭部門における 1世帯あたりの エネルギー消費量	30.1ギガジュール (2006～2010年度 平均)	18.8ギガジュール (2021年度)	22.1ギガジュール (2024年度)	A (3)	★★★★ (3)
業務部門における 延床面積1㎡あたりの エネルギー消費量	1.08ギガジュール (2006～2010年度 平均)	0.79ギガジュール (2021年度)	0.88ギガジュール (2024年度)	A (3)	



成果指標の達成状況

○第2項 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
再生可能エネルギーの 設備導入量	11万1千kW (2012年度)	24万8千kW (2021年度)	30万kW (2024年度)	B (2)	★★ (2)



成果指標の達成状況

○第3項 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
1日あたりの鉄道・バス乗車人員	112万1千人 (2012年度)	94.4万人 (2021年度)	120万人 (2022年度)	C (1)	<点数評価> ★★ (2.3) ↓ ★★★ (特記事項を踏まえて星を増)
公共交通の便利さへの評価	77.4% (2012年度)	83.7% (2022年度)	現状維持 (80%程度を維持) (2022年度)	A (3)	
都心部への自動車の流入台数	88,600台/12h (2013年度)	82,400台/12h (2022年度)	87,000台/12h (2022年度)	A (3)	
【特記事項】成果指標「1日あたりの鉄道・バス乗車人員」については、近年、増加傾向にあり、2019年度実績値は130万8千人と順調に推移してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度以降は減少している。					



分野横断型施策

◆第1節 環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり

○第1項 環境行動を担う人材の育成

- ・ 地域におけるリーダーの育成
- ・ あらゆる年代に対する環境教育・学習

○第2項 地域環境力の向上

- ・ 環境に関する多様な人材の把握とそのネットワーク化
- ・ 活動のネットワークづくり



◆第2節 環境の保全・創造に向けたしくみづくり

○第1項 環境配慮のための手続きや規制等の整備・運用

- ・ 環境影響評価の推進
- ・ 福岡市環境配慮指針の適切な運用

○第2項 市民・事業者の自主的な活動等に対する支援

- ・ 表彰・助成

○第3項 環境情報の継続的な収集・発信と共有



◆第3節 ふくおか から 九州・アジアへ

○第1項 近隣地域や九州・国内各地域との連携

- ・ 福岡都市圏の市町との環境協力の推進

○第2項 国際環境協力の推進

- ・ 海外からの研修生等の受け入れ
- ・ 国際機関との連携による技術協力
- ・ アジアの環境改善に向け市民・事業者・行政が連携した取り組みの推進



環境行動を担う人材の育成

環境活動の担い手である市民団体・学校・事業者等あらゆる主体や年代に対する環境教育や学習を推進。

○環境わくわく出前授業(講師派遣事業)

- ・環境学習プログラム集を基に環境の専門的知識や経験を備えた「環境教育・学習人材リスト」登録者等を講師として学校等へ派遣し、授業を実施。 実施回数：43回



出前授業の様子

○環境教育副読本

- ・環境学習教材として、小学校4年生及び5年生向けの副読本を作成。小学校4年生向け「ごみとわたしたち」(17,000冊)、小学校5年生向け「わたしたちのまちの環境」(17,000冊)を配布。
- ・令和4年度に「わたしたちのまちの環境」の全面改訂を実施。



わたしたちのまちの環境



ごみとわたしたち

成果指標の達成状況

○第1項 環境行動を担う人材の育成

成果指標	現状値 (基準年度)	実績値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	総合評価
環境教育・学習 人材リスト登録者数	44人 (2013年度)	72人 (2022年度)	80人 (2024年度)	B (2)	★★



市民・事業者の自主的な活動等に対する支援

市民や事業者等が主体的に取り組む環境保全活動を全市に広げていくため、各主体の表彰や活動への助成を実施。

○福岡市環境行動賞

- ・本市の環境保全・創造に貢献し、顕著な功労・功績のあった個人・団体・学校・事業者を表彰
- ・令和4年度は第11回表彰対象者の表彰式を実施
表彰件数：94件(大賞：1件、最優秀賞：4件、優秀賞：6件、特別賞：2件、みらいチャレンジ賞：3件、奨励賞78件)
- ・表彰式後に、一部の受賞者による活動紹介を実施
- ・受賞者を紹介するパンフレットを作成し、広く配布した。



第11環境行動賞表彰式



受賞者による活動紹介



受賞者紹介パンフレット

○ 未来へつなげる環境活動支援事業

- ・市民団体やNPO法人などが自ら考え企画し、主体的に取り組む環境活動（地球温暖化対策、ごみ減量・3R、自然環境保護、環境美化、環境教育・SDGsの普及啓発等）に対し、補助金等の財政支援及び広報支援を実施。
令和4年度補助件数：14件（前回13件）



補助団体の活動の様子
(コンポスト講座)



補助団体の活動の様子
(自然観察)

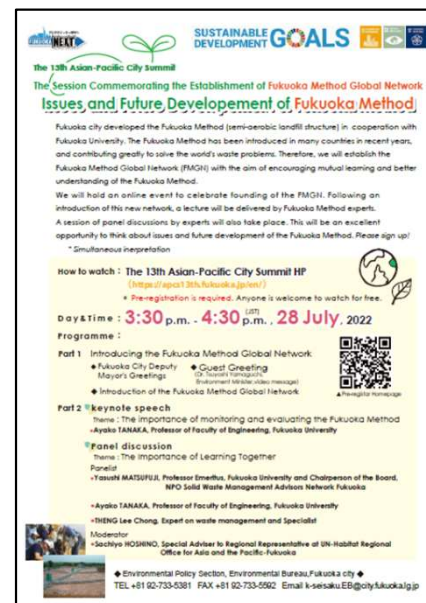
国際環境協力の推進

廃棄物埋立技術「福岡方式」に係る技術協力をはじめ、アジア・太平洋地域を中心に環境分野における国際協力を展開。

○福岡方式グローバルネットワーク(FMGN)の設立 (令和4年7月)

《令和4年度の実施事業》

- ・FMGN設立記念オンラインセミナー（7月）
- ・国内技術者研修（10月）
- ・FMGNオンラインセミナー（3月）



FMGN設立記念オンラインセミナーの様子と案内チラシ

○ヤンゴン市ごみ埋立場の「福岡方式」整備事業 (国連ハビタットとの共同事業)

- ・令和元（2019）年度から始まった当該事業は、令和4年度末で事業終了。

＜参考＞平成9(1997)年度からの実績

- 海外への専門家派遣：累計：14ヶ国 のべ159名
- 廃棄物埋立技術「福岡方式」を学ぶ研修生の受入
累計：35ヶ国 のべ212名
- 環境関連施設への視察・見学の受入
累計：70ヶ国以上 5,955名



JICAと連携した国内技術者研修の様子